

西谷会計

平成28年8月号



【所長のメッセージ】

7月も最終週となり、ねぶた祭りが近づいてきました。この時期は夕方になると、街中から囃子の練習も聞こえてきます。私自身は地元の間人でありながら、実は一度も跳ねたことはありません。一週間のお祭り期間のうち一日くらいを国道の方に散歩に出かけて、立ち見で眺めたり、最終日の花火は気が向いたら岸壁の方に行ってちょっと気分浸る程度でした。

昨年初めて、ビールを片手に、ねぶたを初めから最後まで座って見るという体験をしました。歓声をあげたり写真を撮ったりと大変楽しむことができました。今年は席の確保に加えて、最終日の花火の席もゲットしています。今年は、以前よりもちょっと胸を張って「青森市民」と言えそうです。

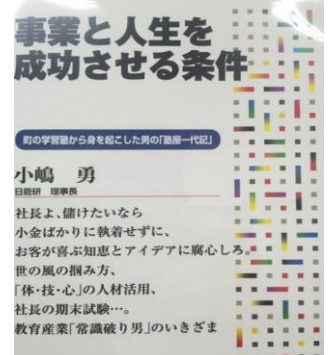


【所長のDVDコレクションより ～日能研～】

日能研は日本全国で学習塾を展開している非上場会社です。資本金は3200万円、売上高は100億円弱の典型的な中小企業ですが、多くの塾生を名門学校に輩出している知名度抜群の会社です。創業者である小嶋氏のモットーは「人の1.5倍働け」です。人と同じくらい寝て、人と同じくらい遊んで、人よりも抜きんではあり得ない、だからこそ、自分が好きなことを仕事にした用がよいと小嶋氏は喝破します。とにかく本業を突き詰めること、そうすることで差別化のアイデアも閃く。「女の先生が80%」というデータを見て、先生を男性にしたり、「アルバイトが多い」ことに気づいて専任講師を採用するようになりました。日能研が一步抜きんできっかけになりました。

小嶋さんは、40歳まで新車は乗らないと決めていたそうです。小嶋さん曰く、40歳でベンツ載っている人は「終わっている」のだとか。中小企業の経営者は、「ちょっと稼ぐと車と自宅と旅行に金を使う。儲かると悪くなると決まっている。」「酒と女は2合(号)まで。生活レベルを上げない、特に女房の生活レベルを上げないこと、男はまた下げることが出来るが、女性の生活レベルは一旦上がるとなかなか下がらない」だそうです。

「忙しい」という口癖はやめる。忙しいは「人」が「亡くなる」と書く。そんな人はいない。でも、モノを頼むときは忙しい人に頼むべきだとか。というのも、忙しい人に頼めばすぐやってくれるからだそうです。小嶋さん曰く、暇な人に頼むといつまでもやらないそうです。確かに、これはその通りですね。



【所長の本棚より～天草エアラインの奇跡～】

本日紹介するのは、「天草エアラインの奇跡」です。天草に設立された第三セクターの地域航空会社のV字回復を描いた本です。天草エアラインの保有する機体は一機のみ、創業当初こそ黒字でしたが、九州電力の発電所工事の完了で工事関係者の利用が激減しました。

天下り社長による、現場を無視したコストカットと増便による収益確保策に従業員の負担は激増します。会社から笑顔は消え、トラブルで欠航便が相次ぐなどで搭乗率が悪化します。公共交通機関として「ちゃんと飛ばすこと」ができなくなった天草エアラインからはお客がどんどん離れて行きました。

新社長の奥島透社長がどうやって人心を得て業績を回復していったかがこの本のキモになる部分です。社員一丸となって、たくさんのアイデアを出して、様々な取り組みや仕掛けを考えます。そのキモの部分はお読み頂くとして、面白いと思ったのが、エアラインを移動手段としてではなく、「天草エアラインに乗った時から天草観光が始まる」とエアラインそのものを天草観光の目的の一つ、観光資源化したことです。現在の機体は「みぞか号(天草の方言で『かわいい』の意味)、イルカの描かれたこの機体には沢山のファンがいます。

奥島社長は、地域航空会社の一番のサポーターは地元の人たちであり、天草市民にエアラインを誇りと感じてほしいと考えたことです。九州新幹線が開通し、地元天草市の観光団体が九州新幹線を前面に押し出してPRしたのを見て、天草市の観光協会に怒鳴り込んでいったそうです。曰く、「地元が応援しないで誰が天草エアラインと応援するんだ」です。メディアから注目されたことで地元での存在感がおおいに増し、市民とエアラインとの距離が縮まりました。それとともに従業員も天草エアラインで働くことを誇りに思うようになったそうです。

第三セクターによる事業の失敗は全国いたるところにあります、うまくいくところと、いかないところの差に気づかせられる内容でした。



【夏子の部屋】

蒸しますね～、熱中症に注意してますか？皆様こんにちは、夏子です。

さて、去る6月25日と26日に青森市で開催された東北六魂祭をご覧になりましたか？私は見物しに行きましたよ。感想はまー、一言で言って「すげー、人！！！」でした。人、人、人でした。とにかく激混み！私は青森市民なので、毎年ねぶた祭りはお馴染みです。その感覚で、六魂祭も花火が上がってから家を出れば調度良い、国道まではすぐだもーん。と考えていました。念のためテレビの生中継を家で視聴しながらスタンパって、こりやもう完璧です。

そわそわしながら、満を持してパレードのスタート時間に国道の柳町交差点に向かいました・・・が、いつもねぶたを見ている歩道まで辿りつけません。そのずっと手前に係員が居て柵をまわしています。混んでいるので国道の方に進まずにそのまま横(堤方面)に進むように促されました。こんなの初めて！パレードもう始まっている～と焦りながら誘導された方に進みます。見たい気持ちがマックスになるので、歩きながらも首をうーんと伸ばして、ふくらはぎもうーんと伸ばして爪先立ちでなんとか遠く離れた国道を見ました。秋田の竿燈が風に煽られてゆっくりと地面に倒れていくのが見えました。離れた場所からでもまつりに参加したい私は、「あーあーっ！倒れる～！」と大きい声を出しながら、その辺りにいる人達とちょっとだけ一体感を味わいます。

その後は、何処なら見られるのか？それとも諦めて帰るのか？葛藤を繰り返しながらさまよい歩き、なんとか人垣の後ろに場所を見つけました。背伸びをしっぱなしで見物客の頭やスマホやデジカメの間からちょこっとだけ見えるパレードを見物しました。一応ね。

あー、何処からあんなに見物客が来たのでしょうか？ねぶた祭りも2日間にするとあんな風に激混みになるのでしょうか？甚だ疑問でした。

パレード以外の他の会場での催しもほとんど行きました。どこもすごい人でしたが珍しいものを食べたりして楽しみましたよ。

それと、アスパム前から出陣するところをたまたま通りかかった時に見た、福島のわらじ祭りの大きなわらじを担いでいるお兄さんたちの履いているわらじが足首までありとても格好良く、「さすがはわらじ祭り、わらじには手を抜かないね！」と感心した事が一番の思い出です。



西谷会計事務所

〒030-0821 青森市勝田2-6-18

<http://www.248nishiya.com>

TEL 017-774-2315

E-mail nishiya-kaikei-jimusyo

@tkcnf.or.jp